

豊かな自然 魅力溢れるトラート県

タイ国政府観光庁(TAT)は訪タイ観光客の地方への誘致を強化しており、「タイ12の秘宝～絶対行っておくべき12県の隠れた名所～」キャンペーンなどを中心に地方の魅力を積極的に発信している。今回はそのタイ12の秘宝のひとつであるトラート県のチャーン島へのファムツアーをバンコクエアウェイズと共催で実施した。トラート県はバンコクから約315kmのタイの南東部に位置し、白砂やサンゴ礁が美しい島が点在、またマングローブ林に恵まれた、まだ手つかずの自然が残る風光明媚な場所だ。

今回はバンコクからバンコクエアウェイズで約1時間、トラート県の持つ豊かな自然と随所に感じるパワーと魅力溢れる観光素材を紹介したい。

(取材協力:タイ国政府観光庁、バンコクエアウェイズ／文・写真 長江喜代美)

バーン・ターラネのマングローブ林 樹齢100年の木々が茂る

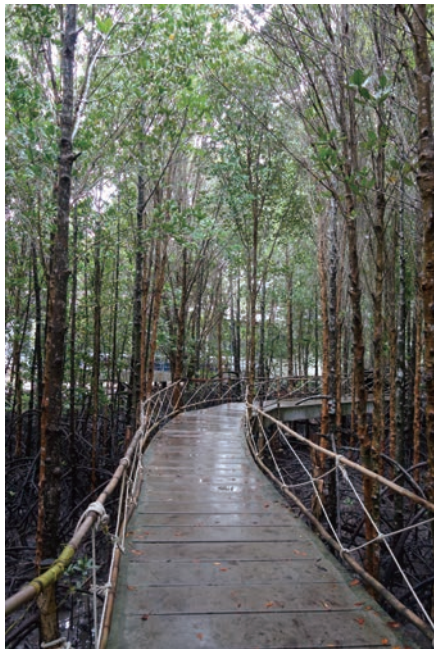
空港から車で約40分、まずはトラート県で必ず訪れたい場所といわれるバーン・ターラネという村を視察。同地のマングローブ林は歴史的な自然遺産のため、クロンジェーク運河沿いの地域で保護活動が行われている。宝石の採掘ラッシュ時代に土砂が隆起したことで生態系は変化し、樹齢100年を超えるタブンの木やランブーの木が茂り、マングローブ林が誕生した。潮位が下がる午前10時頃には美しい形の木の根を見ることができ、豊かな自然と現地の生活に触れることができるエコツアーも催行しており、希望すればホームステイも可能だ。

ここではデトックス効果があり、長寿のお茶として有名なタイハーブからできた「ロイ・ルー茶」を試飲。またマングローブの葉の天ぷらも試食。これが美味で参加者全員は初めて食したと声をあげた。



自然の神秘体験 黒砂のビーチ

マングローブ林に囲まれたバーン克蘭ビーチ、タイで唯一「黒い砂浜」が見られる場所で、世界には5箇所しかないと言われている。マングローブの林を通して海岸に出ると引き潮時には約2kmに渡って「黒い砂浜」が広がり、不思議なヒーリングパワーを感じる。黒い砂は貝殻からできた褐



鉄鋼と珪岩からできており、この砂を身体にこすりつけると肌はすべすべに。7月頃には砂を利用したスパもできる予定だ。遊泳シーズンは9月から1月。現在、入場料は200バーツで現地の環境保護活動への資金となっている。

美しすぎると言われる島々 アイランド・ホッピングで楽しむ

チャーン島周辺には52の島があり、それぞれ個性豊か。スピードボートに乗り、島を巡りながらゆったりとした時間を過ごすのは何とも贅沢な時間だ。今回はワイ島、マーク島、ラン諸島を訪れた。

(ワイ島)

チャーン島の南、ラオ・ヤ島の近くに位置し、釣りに適した大規模なサンゴ礁が広がる海。緑に囲まれ、秘境にいる気分を味わえる風光明媚なビーチがある。



ラン諸島

(マーク島)

トラート県で3番目に大きな島でココナツ林とゴム園がある平野に覆われ、美しい景観を楽しむ入り江が島中に点在しているのが魅力。島で見つけたブランコで揺らりと、日常の忙しさを忘れる至福の時間だ。宿泊施設やレストラン、スピードボートが着く桟橋は島の西側に集まっている。ホッピングの途中、ここでランチを食べたが、素材は新鮮で、どれもおいしかった。

マーク島

食の魅力 新鮮な魚介類がリーズナブル

タイ料理は香辛料、香味野菜やハーブを多用し、辛味、酸味、甘味などを多数に組み合わせた味付けに特徴があり、日本でも人気。地域毎にそれぞれ食材も味も違い、今回訪れた南東部は、とにかく魚介類が新鮮で美味しい。味付け若干濃い目だが辛さはしつこくなく、辛くしたい場合は好みのスパイスを加えればOK。また、とてもリーズナブルで載けるのが最大のポイントだ。デザートはバナナのフリッターとマンゴー、スティキーライス(写真上)も美味。

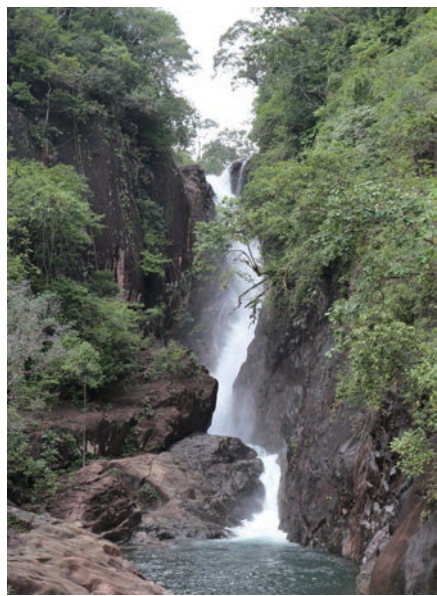


チャーン島へ 緑豊かなリゾートアイランド

トラート本土からフェリーで約30分、タイではブーケットについて2番目に大きな島であるチャーン島。島が象(タイ語でチャーン)の形に似ていることから名付られたこの島は、海洋国立公園にも認定されており、美しいビーチとサンゴ礁、また島の約7割は熱帯雨林に覆われているなど、手つかずの自然が残されている緑豊かなリゾートアイランドだ。

タイ式手漕ぎボートで風光明媚な旅 バーン・サラコック

チャーン島の東側に位置する小さな漁村で、伝統的なタイ式手漕ぎボート(マットボート)に乗って107ヘクタールもある広大なマングローブの林を抜けて海に出るという大自然を体感できる。時間はゆっくり流れ、緩やかな空気の中でのその風景は、まるで絵画の中に入り込んでしまった錯覚にさえも陥るほどだ。また、地元の漁師達の生活を垣間見ることもできる。



自然豊かな美しい滝がいくつも点在 滝つぼで泳ぐ姿も

また、チャーン島は大小さまざまな滝が多く点在している。クロン・パラオビーチから東へ3kmに位置する一番大きな滝「クロン・ブルー滝」。深緑の中を歩きながら滝を目指す。滝は3段階に分かれ、そのうちの1つは泳げる滝つぼがあり、魚が沢山集まり、フィッシュスバ効果もあると多くの観光客で賑わっている。その他、高低差が120mもあり、遊泳も可能なクロン・ヌアン滝、クロン・ヌアン滝の近くにある小さな滝、キリ・ペット滝もお勧めだ。

チャーン島での宿泊 セントラルコチャントロピカルリゾート

クロン・パラオビーチに位置するリゾートで市内へのアクセスも良く、滞在拠点として最適。全157室、部屋は全体に落ち着いた色調、家具は木製でくつろげる雰囲気。館内Wi-Fi 無料、スリッパも用意されている。屋外プールが2つ、スパはカップル用ルームを含む7室のトリートメントルーム、野外トリートメントエリアがある。日本語を話すスタッフもあり、日本人には嬉しいサービスだ。



トラート県の魅力を伝える 「地域密着型ツーリズム」を体験

今回、グリーンシーズン(雨季)に訪れたトラート県。このシーズンならではの緑豊かな自然を体感でき、またバーン・ターラネの村のようにTATが積極的にプロモーションしている「地域密着型ツーリズム」も体験。これは、新しいものを作るのではなく、その地域にある固有のものを紹介することが地域を守ることに繋がるということを強く感じることができた。また訪れて触れ合った人達は皆温かく、地域の良さを多く伝えてくれた。

